

第19回

仏教学科

報恩講

冬の法要

『私にとって報恩講とは』

2024年 2月2日(金)

13時～16時30分(開場12時30分)

会場：九州大谷短期大学 生涯学習センター

内容：勤行、感話、学生法話、学習発表

主催：九州大谷短期大学 仏教学科

連絡先：九州大谷短期大学 仏教学科 (担当：中島・調)

〒833 - 0054 福岡県筑後市蔵数495 - 1 TEL(0942) - 53 - 9900

2023年度 仏教学科 冬の法要

テーマ 『私にとって報恩講とは』

私たち仏教学科は、先日、真宗本廟(東本願寺)の報恩講に参拝し、法要、講義、座談への参加を通して、親鸞聖人の教えにふれてきました。

その中で「恩に報いる」とはどういうことか、報いるべき「恩」とは何かということが問いになりました。「恩」という字を漢和辞典(『新漢語林』大修館書店)で調べてみると、「めぐみ」や「いつくしむ」ということのほかに「受けた方がありがたく思う行為」という意味がありました。

私たちは、普段生きていくうえで、親の恩、友人の恩、先生の恩、その他に、食べ物や水など、生活のすべてに数限りない「恩」を受けています。

しかし、私たちは、毎日の生活のなかで、その恩を頂いていることが当たり前になってしまい、感謝ということを忘れていないのでしょうか。

親鸞聖人は『正像末和讃』において、「恩」に感謝する生き方をこのように教えられています。

如来大悲の恩徳は
身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も
ほねを砕きても謝すべし

(『正像末和讃』、真宗聖典505頁)

この「うた」は「恩徳讃」と呼ばれ、法要や学習会の最後にうたわれており、広く親しまれています。

「如来大悲の恩徳」は「念仏せよ」という阿弥陀仏の本願、「師主知識の恩徳」はその願いを伝えてくれたことです。これらに感謝することをうたっているのが恩徳讃です。

ですから、恩徳讃には親鸞聖人の生き方が示されていると言っても過言ではありません。親鸞聖人が明らかにされた「恩」、その恩に私が報いるとはどういうことなのでしょう。

この度は、「報恩講」をご縁に「私にとって報恩講とは」というテーマのもと、皆様とご一緒にたずねていきたいと思っております。ぜひお参りください。

